

第9回調査・研究企画調整会議 議事概要

(注：本会議は個別具体の研究者や研究課題名に言及した議論が行われることから、非公開で行った。

本会議概要についても、それらが特定されない形での公表とする。)

1 日時：平成24年2月24日（金） 14：00～15：47

2 場所：食品安全委員会22階委員会室

3 出席者（7名）五十音順

圓藤 陽子（独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長）

尾崎 博（国立大学法人東京大学農学部教授）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進室室長）

熊谷 進（食品安全委員会委員長代理）

小泉 直子（食品安全委員会委員長）

長尾 拓（食品安全委員会委員）

◎廣瀬 雅雄（食品安全委員会委員）

（◎：座長）

4 欠席者（1名）

品川 邦汎（岩手大学特任教授）

5 議題

（1）継続課題の中間評価案の調整及び確認について

（2）その他

5 議事

（1）継続課題の中間評価案の調整及び確認について

○中間評価案について

研究運営部会からあった中間評価案に関する報告を踏まえ、中間評価対象課題（22年度採択8課題、23年度採択7課題の合計15課題）の中間評価案について検討し、すべての課題を継続とする「平成22年度及び平成23年度採択食品健康影響評価技術研究課題の中間評価結果（案）」を取りまとめ、3月1日（木）開催の第421回食品安全委員会へ報告することとなった。

1）研究の継続について

検討の結果、すべての課題について「継続」とすることとした。

〔研究の継続についての検討内容〕

評価の評点の平均点が、「中止すべきである」に該当する1点がついた課題はなかった。「改善すべき」に該当する2点台の2課題については、研究目的に沿って研究内容を改善するよう求めることで、他の課題と同様、研究の「継続」とすることとした。

2）評価所見について

継続課題の次年度の計画策定と、研究を遂行する上での具体的な留意点をコメントとして各主任研究者に還元するための評価所見について、研究運営部会から

報告のあった評価所見案を元に検討を行い、食品安全委員会に報告する評価所見案を作成した。

〔評価所見についての検討内容〕

- ① 課題番号 1007 主任研究者 広瀬明彦
「用量反応性評価におけるベンチマークドース法の適用に関する研究」
・動物実験については、複合暴露影響への適用を検証するためとの記載が必要である。
- ② 課題番号 1106 主任研究者 吉田優
「食品中のアルミニウムの神経発達系への影響など、新生児発育に対するリスク評価研究」
・リスク評価への活用には、さらに低濃度の測定が可能な方法の採用、ヒトデータの収集等が必要である。
- ③ 課題番号 1001 主任研究者 森寿
「遺伝子発現モニターマウスを用いた発達期脳に対する化学物質暴露影響評価法の開発」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ④ 課題番号 1002 主任研究者 那須民江
「フタル酸エステルの生殖・次世代影響の健康リスク評価に関する研究」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑤ 課題番号 1003 主任研究者 佐藤薫
「食品中化学物質への胎生～新生期暴露が情緒社会性におよぼす影響評価手法の開発」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑥ 課題番号 1005 主任研究者 堤康央
「食品中ナノマテリアルの腸管吸収及び体内動態の特性を利用したリスク評価手法の開発」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑦ 課題番号 1006 主任研究者 小川久美子
「グリシドール脂肪酸エステルおよび 3-MCPD 脂肪酸エステルの安全性評価に関する研究」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑧ 課題番号 1008 主任研究者 蜂須賀暁子
「ナノ物質の経口暴露による免疫系への影響評価手法の開発」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑨ 課題番号 1009 主任研究者 平田健一
「トランス脂肪酸による動脈硬化性疾患の発生機序の解明と健康影響評価手法の確立」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑩ 課題番号 1101 主任研究者 五十君静信
「食品を介するリステリア感染症に係わる高病原性リステリア株の評価と生体側の要因を加味した食品健康影響評価に関する研究」
・研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑪ 課題番号 1102 主任研究者 圓藤吟史
「アルセノシュガー、アルセノリピッドを含有する食品摂取による健康リスク評価」

- ・ 知見の少ないアルセノシュガー、アルセノリピッドについて、抽出、合成、体内動態等において有用な結果が得られているため、評価所見に反映すべき。
- ⑫ 課題番号 1103 主任研究者 松永洋志
「肝臓キメラマウスを用いたヒト型代謝プロファイルの外挿によるリスク評価手法の開発」
 - ・ 研究運営部会の評価所見内容をより正確にするために一部修正。
- ⑬ 課題番号 1104 主任研究者 西川秋佳
「ラットにおける遺伝毒性・反復投与毒性併合試験法の開発」
 - ・ 研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑭ 課題番号 1105 主任研究者 吉田緑
「日本における農薬等の急性参照用量設定のためのガイダンス作成に関する研究」
 - ・ 研究運営部会の評価所見どおり。
- ⑮ 課題番号 1107 主任研究者 登美斉俊
「胎児移行性における種差を反映したヒト胎児毒性リスク評価手法の開発」
 - ・ 研究運営部会の評価所見どおり。

(3) その他

○研究費の配分案について

- ・ 予算が減額となったことから、全ての課題について、これまでと同様に評点による傾斜配分して減額することはやむを得ない。
 - ・ 評価の低かった課題でも、あまり減額しすぎると研究に支障がある。
- 24年度研究費については、新規6,000万円、継続15,000万円の配分案とすることを決定した。また、個別課題の配分については、研究内容の必要性を勘案して査定率の考え方を決定した。

以上